

地域医療体験研修 ～『公立藤田総合病院コース』～

【研修一日目：7/24(月)】

午前：桑折町保健福祉センター

『赤ちゃん触れ合い教室』

釧路中学生を対象に桑折町の保健師さんが企画した教室に参加させていただきました。40名ほどの中学生と一緒に8組のお母さんと赤ちゃんに触れ合ってきました。女子はさすが抱っこ上手、男子はドギマギ…。医師を志す医大生の皆さんにとって、赤ちゃんとの触れ合いは生命の尊さをあらためて感じるよい機会になったのではないのでしょうか。（男子は父性が芽生えたかな？）



午後：公立藤田総合病院見学

まず始めに昼食。こういった機会でないと思えるものを、と栄養管理室のご協力により当日の入院食を召し上がっていただきました。昼食後に、堀川院長から～地域医療における当院の役割～と題して講話をいただいた後、近藤副院長から当院の概要を説明、地域包括ケアの流れを医大生に学んでいただきました。その後、近藤副院長の案内で院内を視察。最後に当院の初期研修医との懇談で地域の病院でのやりがいについて語り合い、一日目の研修終了となりました。



夜：医療従事者との懇談会

一日目の締め括りは、宿泊先でもある『道の駅国見』で当院の先生方と懇談会。緊張の中で研修をスタートした医大生の皆さんもアルコールの力で少しずつほぐれていき、和気藹々とした時間を過ごしていました。



【研修二日目：7/25(火)】

午前①：桃の収穫作業体験

病院組合の議員でもあり、JA 全農福島も専門部会長でもある井砂善栄様のご厚意により、桃畑を見学させていただきました。

地域医療を知るには、まず地域を知る。前日は白衣を着ていた医大生たちも、ジャージに長靴、首にタオルとなかなかの出で立ち。井砂さんから伊達地域の農業の現状やご自身の病体験など貴重なお話をいただきました。いざ畑に行くと、井砂さん



から「自由に桃を採って食べていいぞ！」とありがたいご指令。医大生は満面の笑みで桃をもぎ取りながら、「皮は何で剥いたらいいですか?」。すかさず井砂さん「皮のまま食べばいいんだぞ!!」と桃をガブリ。関東出身が多い医大生たちは男女問わずお口ポッカ〜(笑)。それでもこれしか方法はないと畑の中にあつた水道でさっと洗って皮ごとガブリ!!これぞ地域医療体験研修!



午前②：JA国見共選所での桃の出荷作業体験

畑から共選所へと移動し、今度は桃の出荷作業体験です。光センサーを通過した桃がベルトコンベヤーに乗って流れてきます。その甘さや大きさによって振り分けら



れる桃を待ち構えて、桃にネットをかぶせたり、きれいに箱詰めしたり、熟年の技を持つプロのお姉様に熱血指導をいただきながら医大生たちは黙々と必死に作業していました。

お土産にたくさんの桃までいただき、ほかではできない貴重な経験をさせていただきました。



午後①：特別養護老人ホーム国見の里

Tシャツとジャージから白衣に着替え、介護施設の重要性とその仕組み、医療機関との連携について説明をいただいた後、施設内を見学させていただきました。



午後②：国見町地域包括支援センター

地域医療における行政の役割を社会福祉士さん、看護師さん、それぞれの視点からご説明いただきました。地域包括支援センターという存在を初めて知った医大生も多く、医療・福祉・行政が連携することの重要性を強く感じていました。

夜：KJ法によるディスカッション

道の駅の研修室で、「伊達地域における医師不足への処方箋」をテーマに、この二日間で「見て」「聞いて」「感じた」ことをもとに様々な意見が出されました。JAさんからいただいた桃を道の駅のスタッフさんに無理を言って切り分けていただき、伊達の美味しい桃を食べながら熱い議論が繰り広げられました。



【体験研修三日目：7/26(水)】

午前①：訪問看護同行

当院の訪問看護に向かう車5台に分かれ、在宅医療の患者さんのお宅を訪問させていただきました。実際に見ないと分からない現実の有り様を医大生たちは様々な思いで感じ取ってきたようです。将来、医師となった時のとても大切な糧になったと思います。医大生の参加数が多く、訪問看護師の皆さんには人数の振り分けや訪問宅の承諾を得るなど多大なご尽力をいただきました。ありがとうございました。



午前②：国見町デイサービスセンター

所長さんからデイサービスセンターの機能についてご説明させていただいた後、利用者さんと触れ合う時間をいただきました。高齢者の皆さんのあふれる活気に、医大生の方が笑い元気をもっていたようです。



午後①：いきいきサロン（貝田集会所）



いきいきサロンは、国見町が高齢者の健康づくりや社会参加を促進するため、国見町社会福祉協議会に業務を委託して、毎日地区代わりで開催されています。

今回は赤い鳥居と赤い太鼓橋が架かる神社に隣接した貝田集会所。大木が茂り、トトロが出そうなロケーションに、大谷教授も「うん、こういうの」にとんまり。これぞ地域医療体験

研修！



医大生は、参加された地域の方の健康チェックや初めて実践する血圧測定を行いました。なかなか「脈音」が聞き取れず、冷汗をかきながら奮闘していました。

その後、参加者の皆さんと歌を歌ったり、ゲームを楽しんだりと終始笑顔で楽しく交流を深めてきました。

午後②：まとめ・発表

いよいよ2泊3日の地域医療体験研修も最後です!!医大生は各自「研修の感想」と「地域医療に必要とされる医師」をテーマに発表を行いました。

計画から調整、引率となかなか大変な事業でしたが、参加した医大生の皆さんを最後バスで見送る時、明らかに初日の表情とは違うとても充実した笑顔を見た時、彼らの中にこの3日間で実際に「見て」「聴いて」「感じた」ことが、将来の良き財産となっていると感じ、すべての苦勞が報われた気がしました。

この度の地域医療体験研修は到底一人の力で成し遂げられるものではなく、快くご協力いただいた各施設の皆様、各コースに同行いただいた先生方、院内で温かく迎えてくださった当院の全職員の皆様、そして細々とした雑務を精一杯こなしてくれた教育研修センターのスタッフ、3日間バスを運転して下さった運転士さん、皆様のお力があってこそこのことです。この場をお借りして心より深く感謝申し上げます。

この地域医療体験研修は来年度以降も継続実施されます。更なるブラッシュアップを図り、将来の福島地域医療を担ってくれるであろう「医師の卵」を大切に育てていきたいと考えておりますので、重ねて再度のご協力の程何卒よろしくお願いいたします。

